

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候の回復により客の購買意欲が若干増している。
		百貨店（売場主任）	競争相手の様子	・競合他店と週単位の売上情報を交換しているが、以前は各店舗の売上は前年比90%台の前半がほとんどであったが、5月に入って自社も含めて前年比が90%台後半や100%を超える週がみられる。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・客単価は前年比プラス基調で推移している。特に、宝飾品やラグジュアリーブランドなどの高額品の販売単価が少しずつ上昇している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・紳士服が3月から前年実績を上回っている。特にスーツが売れている。4～5万円台あたりの商品がかなり売れている。北海道物産展や沖縄展等の物産催事系は依然としてかなり良い。まだ前年比2%程度落ちているが、客単価、1品単価共に若干下げ止まり感がある。購買率の上昇により、以前に比べると客は買うということに若干前向きになっている。気になるのは、ここ2、3か月は前年比98～100%であった来客数が同95%となっていることである。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客の買上単価が少し上がっている。特に食料品が持ち直している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数が3か月前より上向き傾向にある。客単価については、今まで低調であった婦人衣料や婦人服飾、ベビー関連を中心に単価の高い商品が売れるようになっている。また食品も少しではあるが同様の動きがみられる。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ディスカウントストアやスーパーを商圈内に持つ店舗は集客にかなり苦戦しているものの、競合店の状況に変化のない店舗では、商品政策やイベント強化によって来客数、売上共に前年を上回っている。店舗のトータルとしては4月に引き続き若干の回復をみせている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上は前年比99.7%、コンビニが同97%、ローカルスーパーが同102.3%となっている。しかし前年が悪かったため良いとは言えない。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・催事による売上が大きく、やや良くなっている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	それ以外	・今月はグループ店舗の新規開店に伴う生豆の需要、什器備品などの設備投資があった分、売上が前年に比べて増加している。
		その他専門店【書籍】（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中の来店客が少なかったのが響いており、今も浮上できない原因となっている。高速道路料金引下げは遠方へ人を動かすが、街中はガラガラになっている。しかし、3か月前と比較すれば、今月はやや良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	お客様の様子	・今後の見通しは少し明るいだが、ギリシャ財政危機の影響がどれくらいあるのか、不安材料もある。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	単価の動き	・搭乗客は、前年比で5%ほど増えている。ただし、売上はそれに追随しておらず、前年から1割程度落ち込んでいる。客単価の減少もみられる。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・全般的に人の動きは良くなっている。価格に対しては厳しい選別をするが、一部海外旅行では高額商品も売れるようになった。口蹄疫に関しては多少影響は出ているが、今後の状況次第である。		
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は大きい会社の招待ゴルフ、従業員のコンペが徐々に増えている。前年より2割近く増加している。急に入場者数が増え、やや良い方向になっている。		
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク時も来街者数がかかなり少なく、客の動きが悪い。しかも客単価がかかなり落ち込んでいるという状況で、厳しい様子が続いている。	

商店街（代表者）	販売量の動き	・売上は安定しているのではなく、悪いまま変わらない。良くならない。
商店街（代表者）	販売量の動き	・気候が良くなり旅行などで人が動き、それに伴い商店街も良くなる時期だが、そういう行動がほとんどみられない。気温が低いということもあるが、それ以上に財布のひもが固い。
一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・来客数の動き、単価の動き、すべて厳しい。野菜に関しては、今まで日照不足で高値が続いたが、ここに来て県外の野菜が出てきており、かなり落ちついている。それが逆に安すぎるような感じで、全体的に青果物の動きが鈍い。
一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・5月は母の日というイベントがあったため、売上は悪くはなかった。しかし最近の傾向として、母の日に花を選択するというよりも、いろんな業種で母の日用のイベントをしており、そちらに流れる傾向がある。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・新茶入荷から徐々に売上も伸び、購入単価も普段の購入金額よりやや高めで買う客が多い。今月の売上は前年と変わらない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・5月は物産催事の集客が不振だが、デリー食品及び衣料品でカバーし、全店では前年を上回っている。粗品付きダイレクトメールやポイントアップのクレジット催事、買得商品催事には敏感に反応し、来客数、購買客数共に増加する。一方、通常の来客数は減少している。買上単価は前年並みとなり、クレジットシェアが増加している。客の買物に慎重な姿勢は継続している。
百貨店（企画）	販売量の動き	・売上は、相変わらず前年比90%台前半で推移している。自社カードのポイントアップフェアや会員特別招待会等の特典期間は前年実績を上回るが、通常営業時の客の購買力が一向に高まらない。
百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に、歯止めがかからない。買上客数は前年並みで推移しているものの、商品単価、客単価共に減少傾向が続いている。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・消費者の堅実な購買志向は継続している。ただ安いだけでは購入せず、本当に必要な物、価値がある物を購入する傾向は変わらない。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客の様子をみていると、必要な物は買うが、不必要な物は買わない。ファッション関連の洋服や雑貨の動きが鈍く、逆に食料品をはじめ家電製品の買換えなどは堅調である。出費そのものを嫌がる客が目立つ。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・口蹄疫の影響や農業の天候不良による相場、収穫量の不安定さなどで、客は買控えをしている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・価格に対して敏感になっている客が多い。特売利用の客の割合が増えている。
スーパー（店長）	単価の動き	・店内改装して食料品売場をディスカウントスタイルに変えたところ、順調に推移している。野菜を中心としたディカウント化で売上が前年比130%まで伸びている状況である。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品は来客数、売上共に前年比2%減少しているが、衣料住関連を含めると変わらない。売上も同様である。食品の1品単価は下げ止まり、1人当たりの買上個数も伸びている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・依然として先行きの不透明感、将来の不安感から消費者の節約志向は強まったままであり、なかなか個人消費の増加につながらない。食料品、その他の低価格への需要シフトは更に増しており、他社との値下げ競争も日に日に激化している状況が続いている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・食品を除く衣料品、住居用品への購買が、かなり控え気味の傾向である。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・郊外の食品センターは家族連れの来店が多いが、何をかうという目的意識というより、遊びに来る感覚でウィンドウショッピングを楽しむ客が多い。買上にはつながらないという様子が多くみられる。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・ここ1年の傾向は大きくは変わらないが、前年の夏から秋にかけての状況からすると、ほんのわずかであるが、景気は上向いている。

コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・客単価が相変わらず低く、客のもう1品の買物が少なくなっている。コラボ弁当、企業やテレビ番組とタイアップした弁当を新商品として出してもあまり客受けが良くなく、客が飛びついて買わない状況である。客の財布のひもは依然固い。	
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは天気に恵まれ、人出が多かった。県外からの来店も多く、売上は前年を上回った。月後半は停滞気味だったが、前年売上を上回っている。	
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・5月最初の連休中は、天候も良くそこそこ暖かくて春物がやっと動き出し、前半は良かった。しかし後半雨が多く、冷えたため、コートがいる状況に逆戻りし、何を売ろうか困っている。景気のせいもあるにしても、今年の天候異常には本当にこたえている。	
家電量販店（総務担当）	単価の動き	・裾物ではなく、高機能商品の動きが良い。	
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・9月末まで延長となったエコカー購入補助金制度のおかげで、新車販売台数が好調に推移している。	
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・5月の販売台数は前年比120%と大幅な伸びを示している。ただし、これはあくまでもエコカー補助金制度の影響であり、購買意欲はまだまだ回復していない。	
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・毎年ゴールデンウィークごろから家具の売行きは鈍くなり、今年も同様の動きである。家具は買い回り商品で数件の家具屋を回り、気に入った商品を客は購入するが、100%納得いくまで吟味する客が増えている。	
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの旅行客などの臨時需要に期待したが、燃料油販売量は前年並みであった。ただ、客の様子は余裕があるように感じられたので、今後のカーケア商品の販売に期待する。	
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が全体的に減っている。多い日もあるがそうでない日の方が多い。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらず週末の営業が苦戦している。例年に比べて団体客が減っている。	
その他飲食【居酒屋】（店長）	来客数の動き	・来客数が30年前の3分の1ほどになった。通りをのぞいてもめっきり人通りが少ない。	
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・長崎は、NHKの大河ドラマの影響で観光客が増加していると新聞などで掲載されるが、前年とそれほど変わらず、実感がわかない。日帰り客が多い。	
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・予約状況をみても、季節的な要素を除けば、大きくは改善していない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・NHKの大河ドラマの影響で観光客が増えており、観光関係に関してかなり潤っている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・昼も夜も客の動きが大変悪い。特に夜の繁華街の客の出入りは、ゴールデンウィーク明けのせいもあり財布のひもが固く、思うような動きがない。	
通信会社（管理担当）	それ以外	・会社の資金繰りが厳しい状態が続いている。	
通信会社（営業担当）	それ以外	・ただでさえ景気が良くないが、特に口蹄疫の影響から、多方面で景気は低迷したままである。	
美容室（店長）	お客様の様子	・毎年、5月末は来客数が減少するが、今年はそれほど変化なく、横ばいである。	
音楽教室	お客様の様子	・一番忙しい時期であり、春の生徒募集が一段落したが、入会者数は前年と変化なく、退会者数も同じく変化なしである。	
設計事務所（所長）	それ以外	・新しい仕事の打ち合わせがほとんどない。	
住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・商談客の希望単価が低く、商談がまとまらない案件が多い。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の仲介件数が増えておらず、客の問い合わせも増えていないので、景気はあまり変わらない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・5月前半は商店街も人通りが少しはあったが、後半になると人通りも絶え、勢いが無い。
	一般小売店【鮮魚】（店員）	来客数の動き	・このところ来客数が少ない。何日かしげが続き、入荷量が少なく、魚価も高めである。売れないのに高い商品を仕入れないといけないという最悪の状態である。

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・大きなトレンドのなかでは、今後は間違いなく上向きとなる。客の買物が、低価格一辺倒から少しずつ良いものを買おうとする動きとなっている。特に、ミセスを中心にみえてきており、衣料品はこの数か月のなかでは良かった。しかし、今月の売上は前年を少し割り込んでいる。要因として、気候、九州は口蹄疫の問題、もっとグローバルにみるとギリシャ財政危機問題がある。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク期間、おにぎり、冷やし麺などの割引キャンペーンを実施したが、天候が良かったにも関わらず、思うように売上は伸びず、前年を大きく下回った。競合店の出店が相次いだため、客の買物が分散したことも売上に影響した。
コンビニ（エリア担当・店長）	それ以外	・ゴールデンウィーク期間の売上は非常に良かったが、ゴールデンウィーク明け以降の大雨から天候が崩れ始め、気温が平年を大幅に下回ったため、売上には悪影響となっている。また、宮崎で発生した口蹄疫の影響が深刻になってきており、南九州のコンビニの売上もこれまで良かったが、悪化してきている。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・客は買物に際し、今までよりもさらに態度が慎重である。買上が決まったかなと思っても、もう一度考え直すケースが非常に多い。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・天候不順により売上が減少している。ほとんどの季節商品が前年に比べ悪い状態である。さらに、3月にエコポイント関連でテレビの需要が盛り上がり、家電に使うお金がテレビに流れたため、4、5月はその分だけ家電の需要が冷え込んでいる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・口蹄疫の影響で、宮崎県では車の購入を勧めにくい。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあり、中旬まであまり動きがなかった。5月末に近づいてようやく客が動き出し、売上が前年に達する状況であった。ただ、中旬までの動きの鈍さから月全体では苦戦した状況であり、景気はあまり良くなかった。来月の予約動向にも活発な動きはみられないので、先行きはまだ上向きではない。
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・昨今の不安定な政治情勢から、客も勢いがでてこない。店は心境的に暗くなり、もっと明るくならないと客も利用しなくなる。
観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・5月に関しては、婚礼宴会が件数、来客数、売上ともに前年を大きく下回り、総売上でも苦戦している。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・5、6月は例年の団体客が少なくなり、個人客も非常に単価が低く、競争が激しくなっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・この時期は人の流れがあまり良くない時期で、小旅行は非常に少ない。一部の人だけが円高の恩恵で海外に旅行するが、国内の動きは非常に悪い。景気は少しずつ下がっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・農家の生活のため、県内の人が動かず、だんだん悪くなっている。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・期末前後の商戦が終息し、販売量が低迷している。
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・今月はゴールデンウィーク以降、低価格商品などの目玉商品が少ないこともあるが、来客数が少なく、販売台数も極端に下がっている。
通信会社（総務担当）	お客様の様子	・厳しい景気の状態のなかで、景気動向はやや持ち直していると言われているものの、大型店の売上は前年マイナスで、景気の良さが実感できない。雇用・所得も下げ止まりつつあるという状況で、上向いて良くなっている状況ではなく、今後はさらに悪くなる。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・宮崎県では口蹄疫問題で各種イベントが中止あるいは延期されている。当社でも県内客の集まる食のイベントが影響を受けており、来客数が減少した。
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今年春の天候はここ数年の平均値以下であり、ゴルフ場経営にとって厳しいものがある。料金の安値競争も底値に達しておらず、更なる価格低下の傾向にある。あるゴルフ場が魅力ある価格設定をすると来客数が増すため、限られた客の奪い合いとなる。

		美容室（経営者）	販売量の動き	・政府、与党の動きが不安定であること等から、消費者の生活防衛傾向が強くなり、景気は悪くなっている。宮崎の口蹄疫の問題、普天間問題も消費者の行動を悪化させている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	単価の動き	・一時的に改善方向にあるようにみえるが、雇用の改善がなされていない現状において、景気が回復方向にあるとは思えない。民間企業の対策にも限界がある。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・口蹄疫の影響で来客数、販売量がかなり落ちている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・口蹄疫問題で客の消費マインドが非常に冷えこんでいる。特に5月18日の非常事態宣言以降、来客数、買上単価ともに激減している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・初夏とはいえないような寒い日が続く、夏物衣料が全く動かない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・周りの人たちの話を聞いても、景気の良い話は出てこない。特に就職率の悪さは計り知れないものがあり、客が買物に来ないのもよく分かる。日常生活にあまり関係のない商品には足が遠のいている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・口蹄疫問題でパーティーの予約がキャンセルとなったほか、ホテルでも100人単位で団体客のキャンセルが出ている。売上はかなり悪くなっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節が忙しくなくなるが、見込みより受注量が増えている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・商業施設への家具購入金額が少しずつ上がってきた。価格ありきの状態からデザインや品質に目がいくようになり、単価の高いものも売れるようになった。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・生産設備用部品の受注量が増えつつある。また設備そのものの受注量についても多少の増加がみられる。
		金融業	取引先の様子	・製造業は、下半期の見通しをやや上向きでみている。生産の水準が高いとはいえないが、人員を削減している現在ではフル稼働に近づいている。中国向け製品が大半を占めている状況である。小売、サービス業も高い水準ではないが、ここ数月は安定して推移している。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は良くなってきたので、5月はかなり期待していたが、ゴールデンウィーク後、思うように伸びていない。特に口蹄疫が原因とみられる。鶏肉業界の当社は直接関係ないが、全体的に取引を自粛しているようであり、宮崎の取引先の落込みが激しい。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	取引先の様子	・新規の問い合わせ件数もさほど増えず、変化はない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、取引価格はいくらか安くなったが、受注は流通の間口を少し広げたことにより多くなっている。取引がかなり落ち込んだ前年に比べると、今年は商品も少し増やし、いくらかましになっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先全体が回復していないために、継続して受注がない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体関連の受注量が非常に多くなり、時間外労働が増え、稼働状況は非常に良い。これで価格が安定してくるとさらに良い状況になる。これから太陽光発電関連などが暫時でくると、受注に拡がりがある。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は、ここきて受注そのものに変化はなく、しばらくの間は好調が維持できる。特にリードフレーム関連は安定した状況が続いている。
		輸送業	受注量や販売量の動き	・一部の企業の決算報告をみると、好成績のところが見受けられるが、まだまだ景気回復とは言えない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物において、動きが良い特定の物はなく、全体の荷動きが非常に悪い。
		通信業（経理担当）	それ以外	・公共投資の縮減により、以前ほど土木工事が見られなくなっている。
		金融業（従業員）	それ以外	・商店街の店舗が郊外に移転して空き店舗が増加している。

	金融業（営業職 渉外係）	それ以外	・大企業を中心に業績回復の兆しがみえているが、ここきてギリシャ財政危機などの金融不安が再発し、円高による企業業績への影響が徐々に始めている。	
	金融業（得意先 担当）	取引先の様子	・5月の貸出金の状況は、前向きな案件はほぼゼロに等しい。既存の取引先では、数年前の借入金の返済に伴う折り返し融資が大半であり、借入の内容についても当面の運転資金といった資金需要が多かったところをみると、まだまだ景気は回復傾向にはない。	
	金融業（営業担 当）	取引先の様子	・中小企業の事業主に設備投資の情報がでてこない。いまだ経費削減に目がいつている。	
	経営コンサル タント	受注量や販売量 の動き	・環境調査・測定においては、顧客企業がコストを削減するために、コンサルタントに発注せず内部化する傾向が強くなっている。また、より低い金額を提示するコンサルタントに発注が集中する傾向が顕著である。	
	経営コンサル タント（代表取締 役）	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比べ受注量に大きな変化はない。	
やや悪く なっている	農林水産業（従 業者）	受注価格や販売 価格の動き	・牛の枝肉販売は、デフレが続いていることから5%程単価が落ちている。口蹄疫の消毒など費用面で厳しい状況である。	
	繊維工業（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	・在庫を作らないようにしようと思死なため、備蓄が全くできない。物件も減り大変厳しい状況である。企業や銀行の備蓄や在庫の認識をもっと柔軟にしてほしい。税法も関係するのではないだろうか。	
	輸送用機械器具 製造業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・北米市場も少しは回復の兆しがあるが、現在納入している対象車種については販売台数が回復していない。	
	輸送業（従業 員）	受注量や販売量 の動き	・製品の荷動きが今月は2、3年前に比べてもかなり悪い状況である。物が非常に滞っており、荷動きがない。	
	その他サービ ス[物品リー ス]（従業員）	受注量や販売量 の動き	・小口引合案件の増加傾向は引き続きみられるものの、5000万円以上の大口設備案件がほとんどなく、その結果、受注額も前年比9%強の減少と厳しい状況である。	
悪く なっている	建設業（社員）	受注量や販売量 の動き	・官公庁の発注が上半期で70%以上とあるようだが、第1四半期も残り1か月となり、いまだに数件の発注のみでは活路を見いだせない状況だ。民間工事は、今の段階では期待できない。	
	経営コンサル タント	取引先の様子	・業務店の酒の売上が伸び悩み、前年比30%減となっている。特に業務チェーン店が悪く、納品価格の値引きを提示している。	
	その他サービ ス[設計事務所] （代表取締役）	取引先の様子	・市町村は、町の行政に関する計画を様々な分野で策定しているが、税収の減少や国の補助金の削減で、策定しないケースがみられ、コンサルタントなどに計画策定を委託することが少なくなっている。総合計画など自治体の最も大事な計画であるにもかかわらず、この度の法改正のため策定をやめる自治体が発生しており、コンサルタントの業務が減少している。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・職種のばらつきがあるものの、長期の事務案件が増えてきた。コールセンター要員については依然として不足状態である。
		職業安定所（所 長）	求人数の動き	・新規求人数は、3月より、前年比で卸売・小売業、サービス業を中心に増加している。しかし、依然として月間有効求人数は減少しており、厳しい状況が続いている。
		職業安定所（職 員） 民間職業紹介機 関（支店長）	求人数の動き	・新規求人数が前年度比で平成21年4月以降初めてプラスとなった。 ・緩やかではあるが人材派遣需要が持ち直しつつある。欠員補充の需要に加え、繁忙のため増員する顧客も見られる。ただし、依然として発注する姿勢は慎重である。

変わらない	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・中途社員の募集をしたところ、若干名の枠に200名を超える応募があった。なかには、3か月以上求職活動をしている人も多い。また、就業中であるが求職活動を行っている人も3割程度いる。現職の見込みがなく転職を志望しているようなので、どの業界も上向きではないとみられる。また、200名を超える応募はあったが、人材の質としては期待したほどではなく、採用は見送る予定である。今回の求職者が就職できるかは非常に難しい。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数が非常に少ない。企業担当者も、今いる人員で業務を処理せざるを得ないということである。派遣会社に注文をするまでには至っていない。
	人材派遣会社 (管理担当)	求人数の動き	・年度末に向けて企業の求人ニーズの高まりを感じたが、その後盛り上がりもなく、様子見の状況である。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・取扱求人数が前年並みで推移しており、求人数は底を打ったようである。
	新聞社[求人広 告]	求人数の動き	・求人数の動向は依然低迷している。また、業種に偏りもみられる。
	新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・ギリシャ財政危機に端を発した欧州市場の混乱は、日本にも波及するのではとの懸念がある。株価の下落と円高が進めば、企業を取り巻く状況は悪化する可能性がある。
	新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・新聞の求人については4月以降引き続き低調で、明るい兆しはない。折込広告の求人についてはやや上向いているようだが、数字としてはきわめて微増である。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・これまでパート求人の下支えがあり、ここ2、3か月の求人状況は持ち直していたが、今月は一般求人が大幅に増加した。しかし、これだけをもって景気が良くなるとは考えにくく、来月以降の動向が重要である。
	学校[専門学 校](就職担 当)	求職者数の動き	・多少景気は上向きになってきたとの声は聞こえるが、現実として求人数には反映されていない。
学校[大学] (就職担当者)	求人数の動き	・求人票の受理件数は、前年度と比較して3割以上の落ち込みが続いており、低調なまま推移している。	
やや悪く なっている	-	-	-
悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・4月に雇用状況は底打ちをしたようにみえたが、求人を取り下げる企業は増加している。